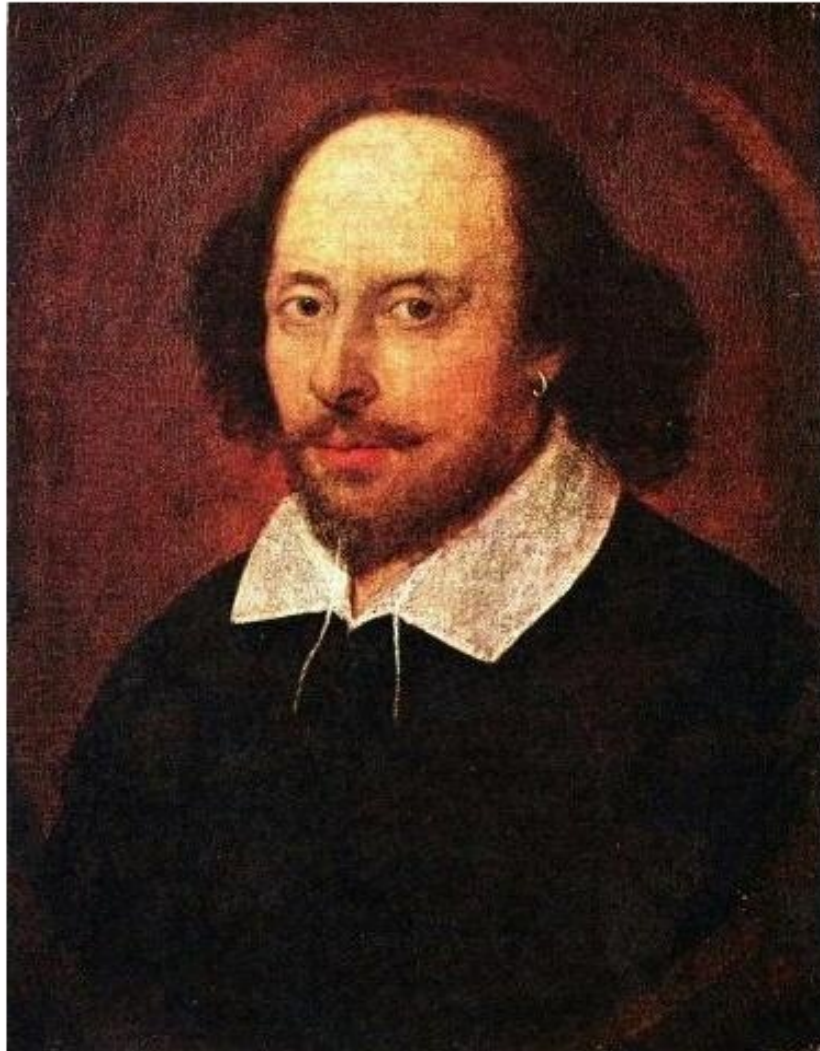


シェイクスピア アによせて



ヤマダヒフミ

シェイクスピアによせて

テレビのスイッチを切り

パソコンもシャットダウンして

僕は一人

四百年前の賢人と語り合う

その精神の自由さに比類するものはないし

その豪胆さに叶う勇氣はもはやどこにもない

彼の手によって世界は軽々と持ち上げられ そして

それはわかりやすいように一般の者にも

見えるような手つきで徹底的に解剖された

そこではこの現実のように曖昧でぼやけて

うんざりするものはひとかけらも見当たらない

悪人は自ら悪人たろうとし、善人は最後の最後まで死力を尽くして悪と闘う

私達の卑俗な人生とは違って

そこでは全てが偉大だ

私達がこの精神の翼に乗って

この大地を遠く離れた魂の空を横切る時

何事をも途中でやめてしまう情けない私達の姿を忘れて

私達は始めてこの世界の全貌を見る

それは朝焼けのように美しく輝くと共に また

夜更けのように陰鬱で恐ろしくもある

そしてそこで得たものを現実の世界へと持って帰れば

不思議と人々と大地の姿が変貌している事に気づく

つまる所、この世界は

シェイクスピアという太陽に照らされて ようやく輝く

そうした一つの惑星に過ぎなかったのだという事を